

# 「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」完成式

令和元年7月12日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」完成式を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。常呂川下流地区（北見市常呂自治区）では、常呂川の氾濫を想定して、4回の検討会を行い、「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」を策定。この度、試行版の完成報告と検討会事務局の4機関がタイムライン運用に向けた協定を締結しました。

- 開催日時 令和元年7月12日（金） 13:30～14:30
- 実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール（北見市常呂町土佐2番地1）
- 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方気象台、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、JA北海道厚生連常呂厚生病院、北見市商工会、常呂町農業協同組合、常呂町建設業協会、北見市常呂自治区町内会（9町内会） 計 12機関 計60名

## 1. 開式

網走地方気象台の菊地 範 気象台長より「『常呂川下流地区水害タイムライン試行版』策定にあたり、座長・アドバイザーの先生方をはじめ多くの関係機関の方々に感謝いたします。近年全国で今までに経験したことがないという集中豪雨による水害・土砂災害が頻発していることを踏まえ、平成28年4月、常呂川減災対策協議会を設置しました。そんな中、同年8月に台風が連続して北海道に上陸し、常呂川では日吉・福山地区で氾濫が発生し尊い命が失われました。住民の命を守るため平成30年7月にタイムライン検討会を発足し、今日の策定に至りました。今後、この試行版を各訓練や実際の災害等に活かし、ふりかえりを行い、より良いものにして常呂川下流地区の災害軽減となることを期待しています。」と挨拶をいただきました。



菊地 範 台長

## 2. 試行版完成報告・手交

### <試行版完成報告>

網走開発建設部の野呂田 亮 治水課長よりタイムライン検討会の目的と方針、検討経緯と概要について説明がありました。



野呂田 亮 治水課長

### <手交>

松尾 一郎 座長（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター客員教授）から「今日の訓練では顔の見える関係を作った。中でも一番頑張ったのは常呂総合支所の皆さんだ。このタイムライン試行版に完成はない。これからも使い続けて地域に根ざしたタイムラインに、そして、北見市全体、オホーツク全体と広げて行って欲しい。」とお話しの後、タイムラインを辻直孝北見市長に手渡されました。



松尾 一郎 座長（右）  
辻直孝 北見市長（左）



### <辻直孝 北見市長 挨拶>

松尾座長からの常呂川下流地区水害タイムライン試行版の受け渡しの後、辻市長から「『常呂川下流地区水害タイムライン試行版』を松尾座長より受け取った。苦難の歴史を辿ってきた常呂自治区の住民にとりまして大変大きな力になることだ。平成30年7月19日の発足以来、多くの関係機関の方が、長時間にわたる何回ものワーキングと検討会で協議して頂き、1年間という短い期間でタイムライン試行版を策定することができました。多機関連携型のタイムラインで顔の見える関係を築き、連携することで早め早めの防災行動をとるなど、地域防災力の向上に繋がるものと考えている。今回タイムラインが完成したが、実際に発生する災害は場所も時間も規模もその時々で様ではなく、タイムラインの運用にあたり様々な課題が出てくるものと考えている。今後連携を図る中で、一つ一つの課題に向き合い、ふりかえり作業を通して、より実効性の高いタイムラインになるように皆様方のご協力と北海道をはじめとする関係機関の皆様方に心より感謝申し上げます。」との挨拶がなされました。

## 3. 協定の締結

「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」の運用協定を締結する4機関（北見市 辻直孝 市長・北海道開発局網走開発建設部 村上昌仁 部長・気象庁網走地方气象台 菊地範 台長・北海道オホーツク総合振興局 宮下忠昭 副局長）が紹介され、各機関の協定書の署名を確認の後、運用協定の発効が宣言されました。



（左より）オホーツク総合振興局 宮下忠昭 副局長・網走地方气象台 菊地範 台長・北海道開発局網走開発建設部 村上昌仁 部長・北見市辻直孝 市長



（左より）オホーツク総合振興局 宮下忠昭 副局長・網走地方气象台 菊地範 台長・松尾一郎 座長・北見市辻直孝 市長・北海道開発局網走開発建設部 村上昌仁 部長・渡邊康玄 アドバイザー・根本昌宏 アドバイザー

## 4. 閉式

オホーツク総合振興局 宮下忠昭 副局長より、「皆様におかれましては、日頃から地域の安全安心な暮らしを守るためそれぞれの立場からご尽力いただき敬意を表する。先ほど松尾座長から辻市長へタイムラインを手渡され、関係4機関による運用協定締結が無事行われたことに対し、関係者の皆様に関心から感謝いたします。オホーツク総合振興局として常呂川下流における水害発生時には避難経路となる道道7号、道管理河川等の情報伝達、自衛隊の派遣要請、リエゾンの派遣など、人の命を守る実効性のあるタイムラインとなるよう積極的に役割を果たして行きたい。」と挨拶いただき、閉式となりました。



宮下忠昭 副局長